

# いきいき生っ子

平戸市立生月小学校

学校だより

令和2年

12月1日 文責：平松紀子



## ◆はなしの伝統芸能「みんなで大笑い！東西寄席」

11月12日（木）に、長崎県青少年劇場「みんなで大笑い！東西寄席」が生月小学校にやってきました。トップバッターは、江戸落語の桂宮治さんです。落語は、右を向いたり左を向いたりしながら、複数の登場人物を演じることを教えてください、手に持つ手ぬぐいは、本になったり財布になったり、扇子は箸になったり筆になったりすることを教えてくださいました。「想像することが大切だからね。」と言いながら、話がどんどん進み、古典落語「初天神」を聞き、みんな大笑いです。

次は、林家楽一さんの紙切りです。一か所から切りこみを入れるとあとは形ができるまでのお楽しみ。切り刻むのではなく、一気に馬や力士を仕上げていきます。リクエストにも応えてくださり、生月大橋という難題もちょちょちょいと出来上がりました。鴨川先生の横顔の時には、「すごい、にてる！」と子供たちも大絶賛です。

最後は、上方落語の桂そうばさんです。動物園のお話で、虎に化けて檻の中に入るお話です。そうばさんは、檻の中の虎と子供、母親の会話や様子を一人で表現し、身を乗り出しながら話す姿は、想像の世界を広げ会場の人々を笑いの中に引き込んでしまいました。



- かみではしを作ったのが、すごかったです。さいしょのらくごのせつめいがおもしろかったです。 1年
- らくごは、はじめて見たけど、本でも時々見てなんでもわらえます。かぞくもいっしょに見たかったなあと思いました。 2年
- 私は、寄席を始めて見られてよかったです。桂宮治さんのあめの話や桂そうばさんの虎とライオンのはなしがおもしろかったです。林家楽一さんのきり紙があともすごかったです。 3年
- 落語は国語の学習で「ぞろぞろ」を習ったけど、本当に聞いたら面白くて最後の「おち」がちゃんとあって家族にも見せたくまりました。落語の意味などがよくわかってよかったです。 4年
- 私は、落語を初めて見ました。飴を詰ませたり、人が虎になったりするのがおもしろかったです。林家楽一さんの下書きもせずに鴨川先生の横顔を切っていてすごかったです。 5年
- 一番最初を見たときにもっと見たいと思いました。自分の頭で考えるのは楽しいし、声を聞いている時も楽しかったです。紙切りでリクエストされたものをその場で作ってくれてすごかったです。 6年



このように、「百聞は一見に如かず」で、子供たちは多くのことを感じ取った様です。

新学習指導要領の中でも「我が国の言語文化に関する事項」として整理され、短歌や俳句の他に、4年生では落語や故事成語を学習したり、5年生で平家物語や6年生で枕草子などの学習をしたりします。世の中が、グローバル化される中、日本人である私たちが日本の文化を知ることがとても大切なことです。今回、子供たちは、笑いを通して落語を身近に感じる事ができたと思います。とても良い経験でした。笑って心もスッキリ、やっぱり、本物ってすごいですね。

## ◆6年生の修学旅行

～御報告ちょっと遅くなりました～

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、6月に行われるはずだった修学旅行が、10月に行われました。6年生にとって一番楽しみにしている修学旅行なので、行けるかどうか心配していましたが、予防対策を講じながら、無事に全員で行くことができました。子供たちは、自分たちで計画したコースを回ったり、夜のホテルでの時間を楽しんだりとても満足していました。



- 僕が修学旅行で心に残ったことは、原爆資料館です。戦争の恐ろしさを改めて知りました。人が焼け死んだり、建物が爆破されたりしたのを見て、二度と戦争を起こしてはいけないと思いました。
- 修学旅行では、いろいろなことを学びました。初めて知ったことや不思議だったことが、たくさんありました。特に原爆資料館で見た戦争の怖さは心に残っています。楽しかったことは、みんなで部屋でカードゲームをしたことです。また、長崎に行きたいです。
- 友達とお泊りができてよかったけど、班別行動でずっとずっと歩いて足が痛くなったことを覚えています。お土産もいっぱい買いました。平和記念物のお土産はいろいろあって人の顔や動きが全部違ってすごかったです。
- 僕は修学旅行で一番楽しかったことは、夜景がきれいだったことです。ぴかぴか光っていました。後、夜のご飯がおいしかったです。怖かったことは、原爆資料館です。人が焼け死んでいて、ファットマンの恐ろしさがわかりました。

生月小学校では、長崎方面を修学旅行として選んでいます。理由の一つとして、平和学習を行うためです。8月9日に平和集会を私たちは行います。これは、長崎県民だから小学校で行うことであって、他の県では行っていません。原子爆弾が落とされた長崎県だからこそ、私たちは平和についてしっかりと考えなければなりません。そこで、平和公園や原爆資料館を訪れるなどして、平和について改めて考え、一人一人が平和への思いを強くし、長崎から、全国へ、世界へと平和の願いを届ける一人となってほしいと願っているからです。今年度の6年生も平和公園で平和集会を開きました。原爆資料館では、一人一人感じる場所があったようです。

## ◆家でも10分間読書をしよう

10月27日(火)の朝日新聞の中に、国語のチカラ「読み、書き、表現」アップの鉄則というのがありました。南雲国語教室(東京都)主宰の南雲ゆりかさんが下のように書いておられます。



### 我が子を読書好きに変える五つのポイント

#### ① 読書嫌いのお子さんには読み聞かせから始める。

おもしろそうな場面で読むのを中断し、続きを本人に読ませる、一緒に本を見ながら交互に音読する、など工夫してもよいそうです。

#### ② まずは読みたい本を好きなように読ませる。

読むことにまだ十分に慣れていない段階では、お子さんが読みたいものを好きに読ませるところからスタートするとよいそうです。

#### ③ 1冊を読み通せなくてもとがめない。

「おもしろそうなところから読んでもいいよ」と声をかけるとよいそうです。

#### ④ 同じ本を繰り返し読む再読を大切にする。

「面白い本は何度読んでもおもしろいよね」などと後押ししてあげるとよいそうです。

#### ⑤ 読書を日々の学習の一環として習慣化する。

計算練習や漢字ドリルと同じように、読書を日々の学習に組み込むとよいそうです。

生月小学校でも家庭10分間読書を推奨しています。特に、毎週木曜日は、メディコンデーなので、図書の本を持ち帰り、読書をするように呼び掛けています。また、第3日曜日は家庭の日であり、「親子読書」も推奨しています。子供が親に読み聞かせをしたり、一緒に読書をしたりと感想も寄せられています。「体の栄養のためにご飯を食べるように、心の栄養のために本を読むといい」といわれます。子供たちには、落語と一緒に、想像する面白さを本の世界でも知ってほしいと思います。

## ◆ココロねっこ運動

子供たちの心のねっこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる県民運動です。「家庭の日」の取り組みもその一つです。子供の心を育てるための一つの方法として、生月小学校では、「オ・ア・シ・ス運動」に取り組んでいます。ご家庭でもご協力いただき、家庭でも、学校でも、地域でも自分から進んで挨拶ができるような子供を育てていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。



## ◆12月の予定

- 1日 授業参観・懇談会、学校保健委員会後援会
- 2日 社会科見学(3年生)
- 4日 人権集会
- 7日 劇団ドラ講演会
- 7~11日 特別日課(全学年15:10頃下校)

- 15日 市学力テスト(全学年)、薬物乱用防止教室(6年生)
- 17日 お魚教室(6年生)
- 18日 「平戸さるく」(5年生) **※全学年、研修会のため14:00頃下校**
- 20日 家庭の日      24日 終業式、大掃除      25日から冬休み

7日は、「いのちの花」という演劇が、開発センターであります。鑑賞される保護者の方は、13:10~13:30までに受付をお願いします。また、この日は、お弁当になりますので、よろしく願いいたします。

